

2013年3月期第2四半期 決算説明資料



ヴィンキュラム ジャパン株式会社

2012年11月22日

JASDAQ

証券コード:3784

目次

1. 2012年3月期 第2四半期決算概要	
◇決算のポイント P4
◇業績の概要 P5
◇四半期別 業績の推移 P6
◇分野別受注高・受注残高の推移 P7
◇分野別業績 P8 - P11
◇財政状態（前期末比較） P12
◇キャッシュ・フローの状況 P13
2. 当社の特徴・基本戦略および直近のトピック	
◇当社の特徴と優位性 P15
◇3つの基本戦略 P16
◇上期の主な取組み P17 - P19
◇【抜粋】グローバル戦略 P20 - P21
3. 2013年3月期の業績予想並びに配当予想について	
◇2013年3月期 業績予想（連結・個別） P23
◇第2四半期累計期間業績予想との差異について P24
◇中期数値フレーム P25
◇配当見通し P26

1. 2012年3月期 第2四半期決算概要

決算のポイント

<上期総括>

◆連結売上高は、開示値・前年値を共に上回った
(開示比101.8%、前年比115.1%)

- ・特定顧客化戦略によるアウトソーシング案件の増加
- ・ライセンス販売が堅調に推移
- ・大型MD基幹開発案件の受注が奏功

◆各利益は、開示値を上回り前年同期の赤字から黒字へと転換

- ・ライセンス販売が堅調に推移
- ・特定顧客向けアウトソーシング案件の増加
- ・大型ヘルプデスク案件などの収益構造改善が奏功

業績の概要

単位:百万円、%
百万円未満切捨て

	第2四半期連結累計		開示対比(5月9日発表)				前年対比			
	実績値	売上比	開示比	開示差	開示値	売上比	前年比	前年差	前年値	売上比
売上高	5,067	—	101.8	91	4,976	—	115.1	663	4,403	—
売上総利益	920	18.2	100.6	5	915	18.4	150.6	309	611	13.9
販売管理費	827	16.3	100.6	4	822	16.5	106.5	50	776	17.6
営業利益	93	1.8	100.6	0	93	1.9	—	258	△165	△3.8
経常利益	97	1.9	111.4	9	88	1.8	—	231	△133	△3.0
四半期純利益	59	1.2	119.9	10	49	1.0	—	134	△75	△1.7

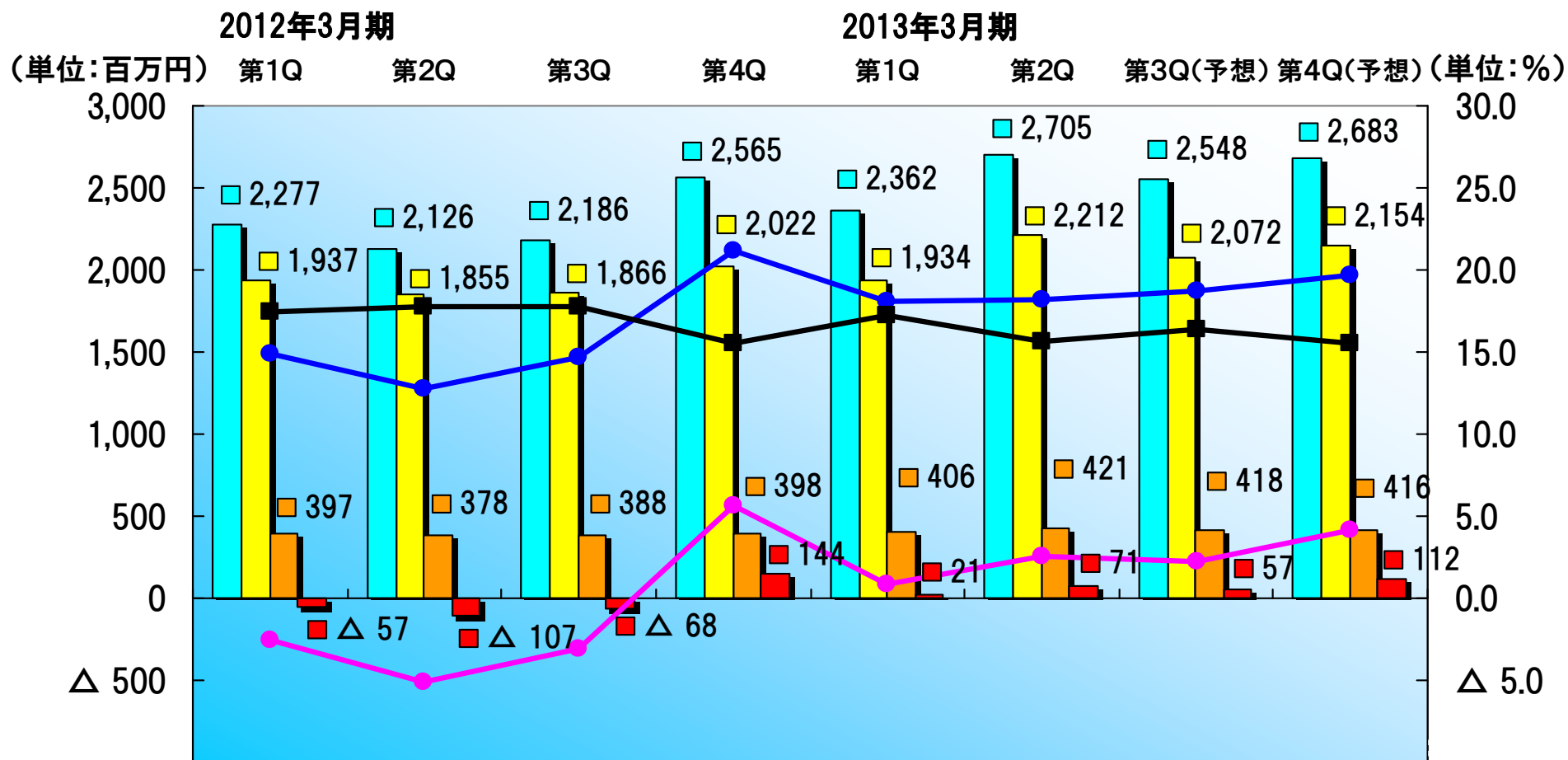
【第1四半期 実績】

売上高	2,362	—	97.1	△71	2,433	—	103.7	84	2,277	—
売上総利益	428	18.1	95.8	△18	447	18.4	125.9	88	340	14.9
販売管理費	406	17.2	98.9	△4	410	16.9	102.2	8	397	17.5
営業利益	21	0.9	60.0	△14	36	1.5	—	79	△57	△2.5
経常利益	23	1.0	63.8	△13	37	1.5	—	50	△26	△1.2
四半期純利益	3	0.1	15.9	△18	21	0.9	—	15	△12	△0.5

【第2四半期 実績】

売上高	2,705	—	106.4	162	2,542	—	127.2	578	2,126	—
売上総利益	492	18.2	105.1	24	468	18.4	181.7	221	271	12.8
販売管理費	421	15.6	102.2	9	411	16.2	111.1	42	378	17.8
営業利益	71	2.6	126.5	15	56	2.2	—	179	△107	△5.1
経常利益	73	2.7	146.4	23	50	2.0	—	180	△106	△5.0
四半期純利益	55	2.1	203.9	28	27	1.1	—	119	△63	△3.0

四半期別 業績の推移 <連結>



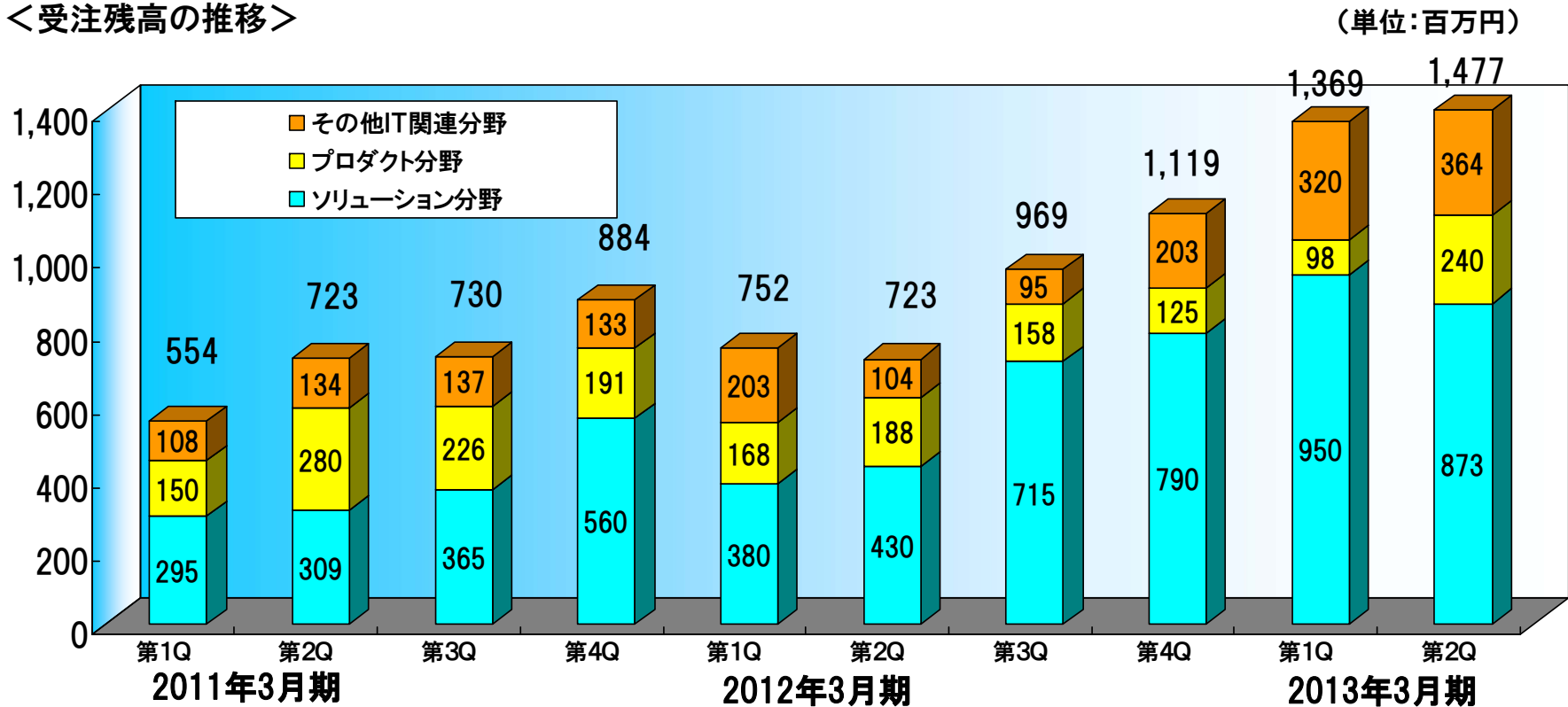
■ 売上高 ■ 売上原価 ■ 販売管理費 ■ 営業利益
● 売上総利益率 ■ 販管比率 ● 営業利益率

	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
売上総利益率	14.9	12.8	14.7	21.2	18.1	18.2	18.7	19.7
販管比率	17.5	17.8	17.8	15.5	17.2	15.6	16.4	15.5
営業利益率	△2.5	△5.1	△3.1	5.6	0.9	2.6	2.2	4.2

単位:%

分野別受注高・受注残高の推移

<受注残高の推移>



<受注高の推移>

単位:百万円

	2011年3月期				2012年3月期				2013年3月期	
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q
ソリューション分野	655	723	664	980	605	765	970	964	979	919
プロダクト分野	192	405	143	268	120	222	275	265	189	394
その他IT関連分野	316	316	397	454	453	233	249	436	408	434
合計	1,165	1,445	1,205	1,703	1,179	1,221	1,495	1,665	1,577	1,749

分野別業績 – アウトソーシング分野の状況

アウトソーシング分野

(システム運用・管理サービス、保守、ヘルプデスクサービス、ASPサービス等)

✓活動結果サマリー

- ・売上は、特定顧客化戦略(イオン、FMSS、タカラ等)により、開示値・前年値を共に上回った。
- ・営業利益は、大型ヘルプデスク案件の業務効率を向上させ、大幅な利益改善を図った。

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

<連結>	上期		開示対比 (5月9日発表)				前年対比			
	実績	※比率	開示比	開示差	開示値	※比率	前年比	前年差	前年値	※比率
売上高	2,098	41.4	105.8	115	1,983	39.9	114.0	258	1,840	41.8
売上総利益	243	11.6	97.8	△5	248	12.5	194.1	118	125	6.8
営業利益	9	0.5	1,279.4	9	0	0.0	—	77	△67	△3.7

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。

分野別業績 — ソリューション分野の状況

ソリューション分野

(流通サービス業基幹システム、クレジットカードシステム、Webシステムの開発)

✓活動結果サマリー

- ・売上は、大手POSベンダー向け顧客管理システムの開発や大型MD基幹開発案件により開示比で微増、前年比では大幅な伸びとなった。
- ・営業利益は、大型案件のマネジメントコストの増加や開発コストの増加により利益が縮小した結果開示比では厳しい結果となった。一方、前年対比では売上が伸びたことにより、117.8%を確保した。

単位：百万円、%、百万円未満切捨て

<連結>	上期		開示対比 (5月9日発表)				前年対比			
	実績	※比率	開示比	開示差	開示値	※比率	前年比	前年差	前年値	※比率
売上高	1,816	35.9	104.8	83	1,733	34.8	121.1	316	1,500	34.1
売上総利益	281	15.5	81.0	△65	346	20.0	119.6	45	235	15.7
営業利益	80	4.4	44.1	△101	181	10.5	117.8	12	68	4.5

※比率…売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。

分野別業績 – プロダクト分野の状況

プロダクト分野 (流通サービス業向けパッケージ開発、販売)

✓活動結果サマリー

- ・売上は、ライセンス販売が堅調に推移し、ほぼ開示値を確保し、前年対比では大幅に上回った。
- ・営業利益は、ライセンス販売が堅調に推移したことにより、開示値・前年値を共に大きく上回った。

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

<連結>	上期		開示対比 (5月9日発表)				前年対比			
	実績	※比率	開示比	開示差	開示値	※比率	前年比	前年差	前年値	※比率
売上高	469	9.3	97.7	△10	480	9.6	135.4	122	346	7.9
売上総利益	234	50.0	146.4	74	160	33.4	229.6	132	102	29.5
営業利益	160	34.1	152.2	54	105	21.9	681.9	136	23	6.8

※比率…売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。

分野別業績 — その他IT関連分野の状況

その他IT関連分野 (ハードウェア販売、移設展開サービス、その他ITサービス)

✓活動結果サマリー

- ・売上は、ハードウェア販売が減少し、それ以外のサービス(DM案件等)が伸びたが、結果としては開示値・前年値共に下回った。
- ・営業利益は、ハードウェア販売以外の売上増加により利益を確保でき、開示値・前年値を共に上回った。

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

<連結>	上期		開示対比 (5月9日発表)				前年対比			
	実績	※比率	開示比	開示差	開示値	※比率	前年比	前年差	前年値	※比率
売上高	682	13.5	87.6	△96	779	15.7	95.4	△33	715	16.3
売上総利益	161	23.6	101.3	2	159	20.4	108.8	13	148	20.7
営業利益	116	17.0	151.9	39	76	9.8	118.3	18	98	13.7

※比率…売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。

財政状態(前期末比較)

【貸借対照表】

(単位:百万円)

区分	2013年3月期 第2四半期末		2012年 3月期末	差 額
		構成比		
流動資産	3,786	66.5	3,497	289
固定資産	1,909	33.5	1,909	0
<有形固定資産>	562	9.9	574	△11
<無形固定資産>	669	11.7	717	△48
<投資その他の資産>	677	11.9	617	60
資産合計	5,696	100.0	5,406	289
流動負債	1,821	32.0	1,692	127
固定負債	135	2.3	160	△32
負債合計	1,956	34.3	1,852	103
純資産	3,739	65.7	3,553	185
負債・純資産 合計	5,696	100.0	5,406	289

【貸借対照表のポイント】

<流動資産>

- ・現金及び預金の増加
- ・受取手形及び売掛金の増加

<固定資産>

(有形固定資産)

- ・設備投資の減少

(無形固定資産)

- ・ソフトウェア取得額の減少

(投資その他の資産)

- ・投資有価証券・関連会社株式の増加

<負債>

- ・未払金の増加
- ・工事損失引当金の増加
- ・買掛金の増加

<純資産>

- ・少数株主持分の増加

キャッシュ・フローの状況

	(単位:百万円)
税金等調整前四半期純利益	99
減価償却費	149
のれん償却額	18
持分変動損益(△は益)	△ 16
持分法による投資損益	△ 5
売上債権の増減額(△は増加)	△ 76
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 9
仕入債務の増減額(△は減少)	24
未払金の増減額(△は減少)	21
その他	23
小計	228
法人税等の支払額等	△ 25
営業活動によるキャッシュ・フロー	202
有形固定資産の取得による支出	△ 32
無形固定資産の取得による支出	△ 47
投資有価証券の取得による支出	△ 42
その他	△ 5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 127
社債、借入金の返済による支出	7
配当金の支払額	△ 31
少数株主からの払込みによる収入	170
財務活動によるキャッシュ・フロー	146
現金及び現金同等物に係る換算差額	2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	223
現金及び現金同等物の期首残高	777
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,001

【キャッシュ・フロー計算書のポイント】

<営業キャッシュ・フロー>

増加要因

- ・固定資産の取得等による減価償却費の計上
- ・税金等調整前四半期純利益の計上
- ・仕入債務の増加

減少要因

- ・受注増による売上債権の増加

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

減少要因

- ・ソフトウェア等の無形固定資産の取得による支出
- ・海外子会社(ヴィンキュラム マレーシア)の株式取得による支出

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

増加要因

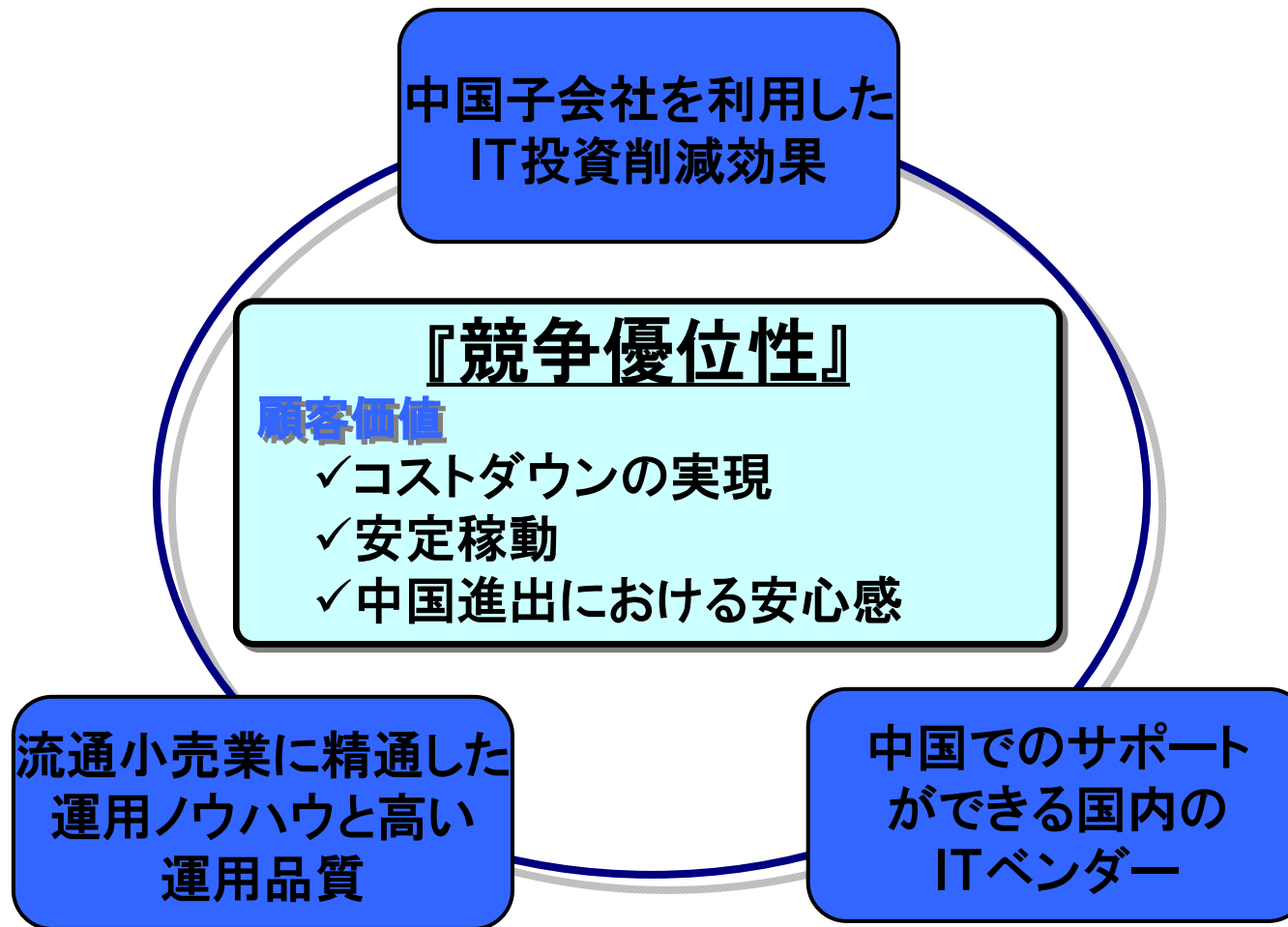
- ・富士ソフト株式会社による当社海外連結子会社(ヴィンキュラム チャイナ)への増資

減少要因

- ・配当金の支払による支出

2. 当社の特徴・基本戦略および 直近のトピック

当社の特徴と優位性



3つの基本戦略

3つの基本戦略

(特定顧客化戦略、グローバル戦略、商品・サービスの差別化戦略)

日本品質による中国アジアでの成長

国内市場での経営基盤の確保

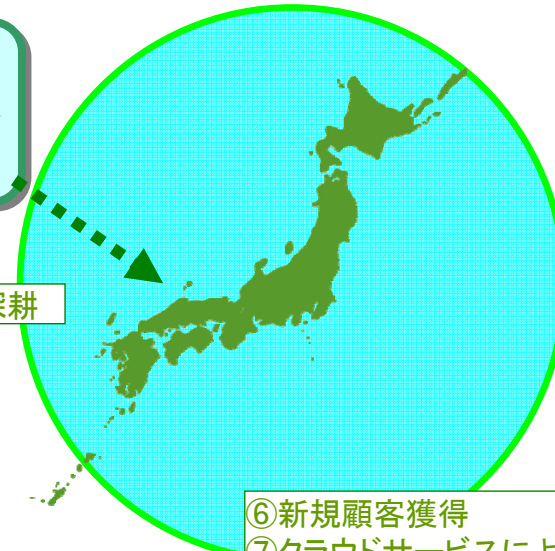
グローバル戦略

特定顧客化戦略

- ②日本品質の海外展開
- ③日系小売業のグローバル進出



①既存顧客への深耕



- ⑥新規顧客獲得
- ⑦クラウドサービスによる顧客拡大、効率的な開発体制

商品・サービスの差別化戦略

- ④アジアのデファクトスタンダード商品開発
- ⑤地域化対応

上期の主な取組み

進展する“グローバル戦略” ～中国・アセアン地域への事業拡大～

●マレーシア子会社の設立 ～アセアン事業の推進～

特定顧客である大手総合小売業グループのアセアン地域への成長戦略に合わせ、市場規模及び成長性の観点からマレーシアに現地法人を設立。

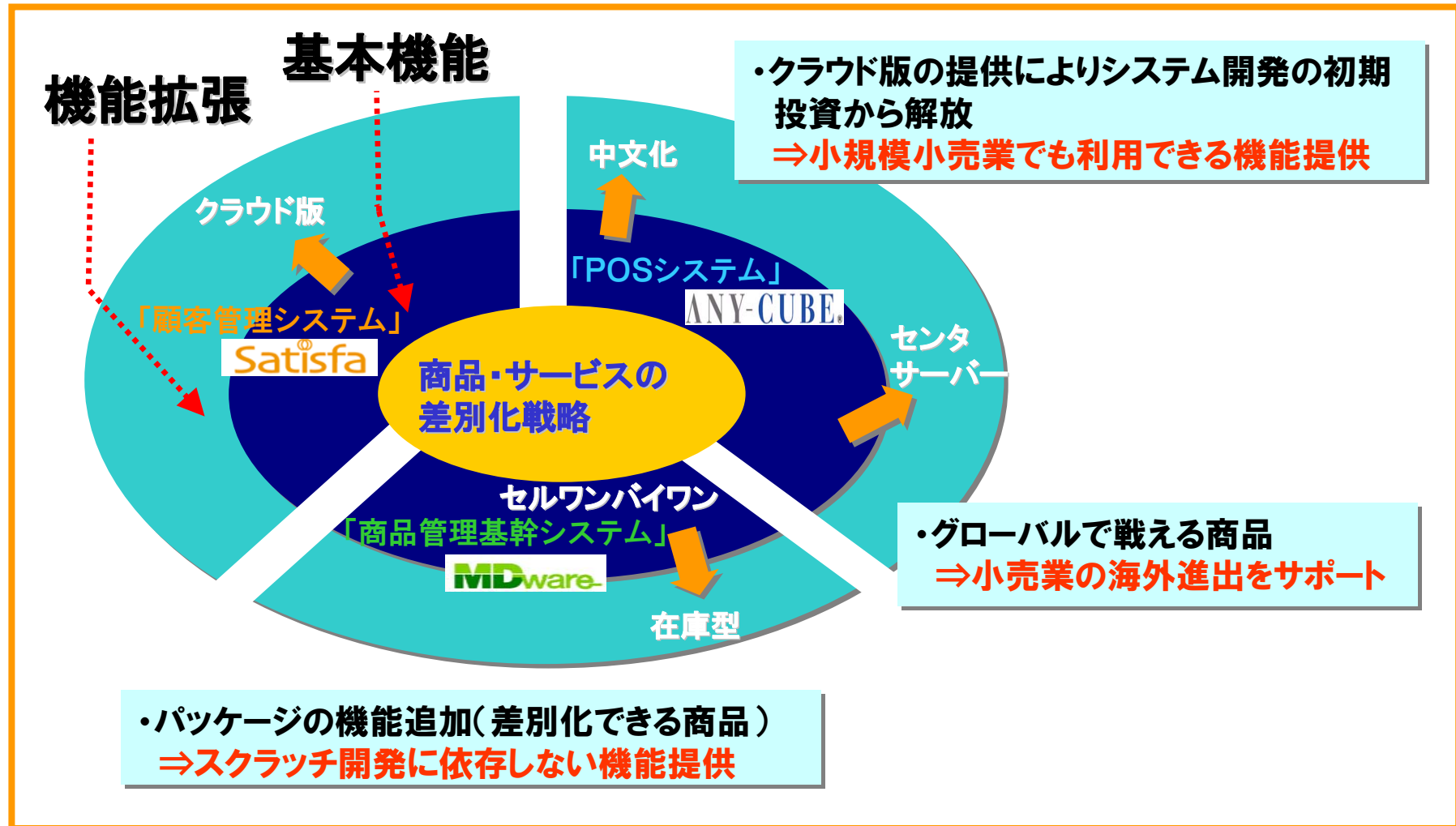
●中国にBPO事業を行う合併会社を設立 ～中国事業の拡大～

中国に既に設立している維傑思科技(杭州)有限公司(ヴィンキュラム チャイナ)を拠点として、上海新域系统集成有限公司(上海ヴィンキュラム)と共に中国におけるITサービスの最適化に取り組み、中国事業の更なる拡大を目指す。



上期の主な取組み

“商品・サービスの差別化戦略”の推進



上期の主な取組み(プレスリリース)

◆マレーシアに子会社を設立

(2012年3月30日 及び 7月2日 発表)

「Vinculum Malaysia Sdn.Bhd.」(ヴィンキュラム マレーシア)を設立。

◆株式会社システムインテグレータとの業務提携強化

(2012年4月16日 発表)

相互が持つ技術・知識・ビジネスノウハウを融合させ競争力を強化し、戦略的パートナーとして包括的に業務提携。

◆中国・マレーシア・日本を国際専用回線で結んだIT運用サービスを開始

(2012年7月13日 発表)

当社及び子会社である「Vinculum Malaysia Sdn.Bhd.」(ヴィンキュラム マレーシア)、維傑思科技(杭州)有限公司(ヴィンキュラム チャイナ)は、共同でマレーシアにおける流通小売業向けIT運用サービスを開始。

※サービス内容:24時間365日対応のシステム運用監視サービス、ネットワーク運用

◆イオンディライト株式会社、株式会社東忠との合併会社

「永旺永楽(杭州)服務外包有限公司」を設立

(2012年8月3日 発表)

人事、総務、財務・経理など管理部門の効率化を推進するBPO事業を行う新会社を中国(杭州市)に設立し、日本及び中国における新たなサービスの提供価値としてBPO事業の確立を目指し、中国事業の更なる拡大を図る。

【抜粋】グローバル戦略(新会社設立について)

マレーシアに子会社

「Vinculum Malaysia Sdn.Bhd.」(ヴィンキュラム マレーシア株式会社)を設立
(2012年3月30日 及び 7月2日 発表)

当社は成長戦略としてアセアン地域への事業展開を図るため、市場規模及び成長性の観点からマレーシアに子会社「Vinculum Malaysia Sdn.Bhd.」(略称:VMC)を設立することといたしました。当社は、VMC及び中国の子会社「維傑思科技(杭州)有限公司」(ヴィンキュラム チャイナ)を最大限に活用し相互連携を図ることにより、効率的な事業運営を推進してまいります。

【新会社の概要】

- ・商号 : Vinculum Malaysia Sdn.Bhd.
(略称:VMC、日本語名称:ヴィンキュラム マレーシア株式会社)
- ・代表者 : 森山 一郎
- ・本店所在地 : B501,Block B,Phileo Damansara 1,9,Jalan 16/11,Off Jalan Damansara 46350
Petaling Jaya,Selangor,Malaysia
- ・事業開始日 : 2012年7月1日
- ・主な事業内容 : ソフトウェア開発、システムの導入・展開・
教育・運用・保守、ネットワークサービス、
機器販売
- ・決算期 : 3月末日
- ・資本金 : 120万マレーシアリングgit(約3,000万円)
- ・出資比率 : 当社 100%

<市場動向>
イオンマレーシア
カルフルの26店舗を買収
⇒従来の29店舗に加えて
55店舗体制に!!
⇒2020年度までに100店舗体制へ!!

【抜粋】グローバル戦略(新会社設立について)

イオンディライト株式会社、株式会社東忠との合併会社 「永旺永楽(杭州)服務外包有限公司」を設立 (2012年8月3日 発表)

当社、イオンディライト及び東忠の3社は、人事、総務、財務・経理など管理部門の効率化を推進するBPO事業を行う新会社を中国(杭州市)に設立し、日本及び中国における新たなサービスの提供価値としてBPO事業の確立を目指してまいります。

当社は既に杭州に設立している「維傑思科技(杭州)有限公司」(ヴィンキュラム チャイナ)を拠点としてこれまで築き上げてきた中国事業の更なる拡大を図ってまいります。

【新会社の概要】

- ・商号 : 永旺永楽(杭州)服務外包有限公司
- ・代表者 : 松井 修
- ・本店所在地 : 中華人民共和国浙江省杭州市滨江区長河路590号
東忠科技园
- ・主な事業内容 : 人事、総務、財務・経理などの管理部門に
おけるBPOサービス
- ・決算期 : 12月末日
- ・資本金 : 1億5,000万円
- ・出資比率 : イオンディライト 70%、当社 25%、東忠 5%

<市場動向>

- ・ITインフラ関連の需要あり
⇒ネットワーク、サーバーなどの
システム運用監視サービス
- ・BPO事業のビジネスノウハウを
蓄積し、上流工程における
コンサル提案を実現させる

3. 2013年3月期の業績予想並びに 配当予想について

2013年3月期 業績予想(連結・個別)

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

連結	通期(2013/3)		前年対比			
	見込値	売上比	前年比	前年差	前年値	売上比
売上高	10,300	—	112.5	1,143	9,156	—
売上総利益	1,925	18.7	130.6	451	1,474	16.1
販売管理費	1,662	16.1	106.3	98	1,564	17.1
営業利益	263	2.6	—	352	△89	△1.0
経常利益	253	2.5	—	293	△40	△0.4
当期純利益	165	1.6	—	201	△36	△0.4

個別	通期(2013/3)		前年対比			
	見込値	売上比	前年比	前年差	前年値	売上比
売上高	8,900	—	107.2	599	8,300	—
売上総利益	1,549	17.4	128.8	346	1,202	14.5
販売管理費	1,339	15.0	101.2	16	1,322	15.9
営業利益	210	2.4	—	329	△119	△1.4
経常利益	200	2.2	—	282	△82	△1.0
当期純利益	124	1.4	—	199	△75	△0.9

第2四半期累計期間業績予想との差異について

■第2四半期連結売上高の差異理由

売上高につきましては、特定顧客化戦略によるアウトソーシング案件の増加や、ライセンス販売が好調であったこと、MD基幹システムに関する大型開発案件を受注したことなどの影響により、当初予想値を上回りました。

■第2四半期連結営業利益、経常利益、四半期純利益の差異理由

ライセンス販売が好調であったこと、特定顧客向けアウトソーシング案件の増加及び収益構造の改善が奏功し、当初予想値を上回りました。

単位：百万円、% 百万円未満切捨て

【連結】	11月2日発表		5月9日発表 開示対比				前年対比			
	実績値	売上比	開示比	開示差	開示値	売上比	前年比	前年差	前年値	売上比
売上高	5,067	—	101.8	91	4,976	—	115.1	663	4,403	—
売上総利益	920	18.2	100.6	5	915	18.4	150.6	309	611	13.9
販売管理費	827	16.3	100.6	4	822	16.5	106.5	50	776	17.6
営業利益	93	1.8	100.6	0	93	1.9	—	258	△165	△3.8
経常利益	97	1.9	111.4	9	88	1.8	—	231	△133	△3.0
四半期純利益	59	1.2	119.9	10	49	1.0	—	134	△75	△1.7

中期数値フレーム

単位:百万円, %、百万円未満切捨て

連 結	売上高		営業利益			経常利益			当期純利益		
		前年比		前年比	利益率		前年比	利益率		前年比	利益率
2010年度(実績)	9,273	98.8	222	—	2.4	215	—	2.3	96	—	1.0
2011年度(実績)	9,156	98.7	△89	—	△1.0	△40	—	△0.4	△36	—	△0.4
2012年度(見込)	10,300	112.5	263	—	2.6	253	—	2.5	165	—	1.6
2013年度(計画)	11,500	111.7	405	154.0	3.5	390	154.2	3.4	229	138.8	2.0
2014年度(計画)	12,800	111.3	610	150.6	4.8	530	135.9	4.1	333	145.4	2.6

個 別	売上高		営業利益			経常利益			当期純利益		
		前年比		前年比	利益率		前年比	利益率		前年比	利益率
2010年度(実績)	8,515	96.4	217	—	2.6	218	—	2.6	35	—	0.4
2011年度(実績)	8,300	97.5	△119	—	△1.4	△82	—	△1.0	△75	—	△0.9
2012年度(見込)	8,900	107.2	210	—	2.4	200	—	2.2	124	—	1.4
2013年度(計画)	9,600	107.9	300	142.9	3.1	290	145.0	3.0	170	137.1	1.8
2014年度(計画)	10,200	106.3	450	150.0	4.4	370	127.6	3.6	229	134.7	2.2

配当見直し

・ 配当方針

当社は、株主様への利益還元を経営の重要課題のひとつとして認識しており、配当金につきましては、企業価値の向上とその水準の維持を可能とする範囲において、事業拡大のための内部留保を勘案しながら決定することを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、今後予想される事業規模拡大のための新規事業及び新製品の開発に対して有効に投資してまいります。

・ 配当見直し

(単位:円, 1株あたり)

	中間配当金	期末配当金	年間配当金合計	配当性向(連結)
2011/3期(実績)	—	2,000	2,000	65.3%
2012/3期(実績)	—	1,000	1,000	△85.7%
2013/3期(見込)	※ 1,000	1,000	2,000	38.2%

※ 2012年11月2日開催の取締役会において、中間配当金(2012年12月10日を効力発生日とする)を1,000円とすることを決議しております。

<本資料取扱のご注意>

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料の作成は、正確性を期すために慎重に行っておりますが、正確性・完全性を保証するものではありません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は当社の公表している将来見通しとは大きく異なる結果となる場合があることをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

ヴィンキュラム ジャパン株式会社
管理部 経理財務グループ
e-mail : ir@mail.vinculum-japan.co.jp